

最先端科学・分析システム & ソリューションの総合展

JASIS 2023 あす開幕

幕張メッセ

日本科学機器協会 会長 長谷川 壽一氏



「科学・分析機器総覧」が、来場者の増加が見込まれる。『科学・分析機器総覧2024』を書籍版では6000冊、DVD版では3500枚を無料配布する。科学機器のバイブルとして来場者から評価は高く、机上や本棚に置きやすく、性能比較ができるメリットがある。

「2年に一度の頻度で、JASIS会期中に台湾、韓国、タイの科学機器団体を招待し、アジア科学機器業界の団体会議の開催を支援していく」

日本科学機器協会(JSIA)は科学技術の基礎を支え、日本のモノづくりに貢献している。科学機器の領域は広く、研究開発や製造開発を支援する器械、装置、道具類の総称として、JASISで毎年、無料配布される『科学・分析機器総覧』を発行するなど積極的な事業展開している。今年も好評の『科学・分析機器総覧』をセミナー参加者に向けて無料配布する。長谷川壽一JSIA会長(英弘精機社長)に、JASISの取り組みや科学機器について話を聞いた。

温暖化防止の取り組み加速

(ASIC)を開催している。海外市場拡大と新しい成長市場創出に向け、会員企業のビジネスチャンス拡大に期待している。米国のビッグコン、欧州のアナリティカを視察を行う中、JASISはアジアのハブとなる分析・科学機器の展示会とされている。

「2022年と比べて23年の会員企業800社の景況感には明るく、業績の回復を感じている。カーボンニュートラル(CN)の達成に向けた動きは、JASIAでも取り組みを加速させている。セミナーや機関連誌を通じて、CNに関する情報を発信している。JASIAの領域は幅広く、その中でも計測機器やセンサーなどが関連するだろう。そして、これらも省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの研究開発を支援していく」

最先端科学・分析システム&ソリューションの総合展「JASIS2023」が9月6日から8日までの3日間、千葉市美浜区の幕張メッセで開催される。主催は日本分析機器工業会(JAIMA)と日本科学機器協会(JSIA)。開場時間は10時から17時まで。さまざまな社会課題を科学技術の観点から解決することに焦点をあてたセミナーのほか、「科学・分析機器総覧2024」が無料配布される。また11月30日までウェブ上で「JASIS WebExpo」が開催されている。リアルとオンラインによるハイブリッド展示会として、新製品・新技術、新しい情報を広く発信する。入場はウェブによる事前登録制。



JASISは科学・分析機器の展示会として存在感を高めている(JASIS2022)

日本分析機器工業会 会長 足立 正之氏



「JASISは、世界的な流れ」を経験したヘリ組織でいく。①カーボンニュートラル(CN)の達成に向けた動きは、JASISでも取り組みを加速させている。②新技術・新事業の推進とともに、分析・計測技術の成長を促す新しい価値やビジネスを創出してきた。

「2022年度は各四半期の好調の状況を反映し、全体の生産高は前年度比15.4%増6866億円、輸出高は同18.9%増の4861億円となった。いずれも前年度比2桁の伸びを示し、好調に推移した。作業環境用・保安用分析機器も通期で生産高、輸出高ともに2桁のプラスとなった。22年度は当初、サプライチェーン(供給網)問題、ウクライナ侵略などの影響が懸念されていたが、円安の影響などから通期は過去最大の伸びとなり、総じて好調だった。輸入高については16年度から工業統計調査の対象となり、22年度は前年度比23.2%減の199億円となった」

「JASISの会長に就任されました。カーボンニュートラル(CN)の達成に向けた動きは、JASISでも取り組みを加速させている。②新技術・新事業の推進とともに、分析・計測技術の成長を促す新しい価値やビジネスを創出してきた。」

「2022年度は各四半期の好調の状況を反映し、全体の生産高は前年度比15.4%増6866億円、輸出高は同18.9%増の4861億円となった。いずれも前年度比2桁の伸びを示し、好調に推移した。作業環境用・保安用分析機器も通期で生産高、輸出高ともに2桁のプラスとなった。22年度は当初、サプライチェーン(供給網)問題、ウクライナ侵略などの影響が懸念されていたが、円安の影響などから通期は過去最大の伸びとなり、総じて好調だった。輸入高については16年度から工業統計調査の対象となり、22年度は前年度比23.2%減の199億円となった」

新たな価値・ビジネス創出

対面で課題解決の相談ができる。リアル展に特化し来場者に情報を発信するスローガンとして、『Come Touch JASIS』を掲げた。来て、最新機器や技術に触れられる展示会を目指す。

JASIS WebExpo

JASIS WebExpoは、7月5日から開催されている。期間は11月30日まで。JASISのオンライン展は業界に先駆けて17年から開催され、常に新しい挑戦と進化を重ねて集客力を高めている。段階的に公開を予定しているコンテンツは講演を約60本用意。約40社・団体が、動画やパネルなどを通じて製品や技術を紹介している。ブースページはリアル展でブースを訪問するのと同じように、バーチャルブースから横にスライド移動することで隣のブースを閲覧できる。22年は約1万2000人が、延べ約6万9000のコンテンツを閲覧。新しいカタチの展示会として分析・科学機器の情報収集の場となっている。



展示会場やセミナー会場に入場するような「エンタランス」画面から、さまざまなコンテンツにアクセスできる。「新技術説明会」「バーチャル展示会場」「JASISコンファレンス/トピックスセミナー会場」の入り口が用意されている。

JASIAが発行する「科学・分析機器総覧2024」は会場特設コーナーで無料配布(数量限定)され、新入社員教育の資料としても活用されている。長年にわたり日本の研究開発、製品開発に貢献してきた。あらゆる分野の研究や製造開発などに使用される製品情報が網羅されている。近年はDVD版やウェブ版も発行している。18年には海外への普及を目的に、英語版掲載会社紹介サイト「SORAN」を開設した。同総覧は14項目の機種分類に分けられ、同一機種は会社名の50音順に掲載されている。機種名は一般的な呼称で表示しており、企業の製品カタログの商品名と異なることがある。

科学・分析機器総覧2024 特設コーナーで無料配布/JASIA

HORIBA Your Partner in Changing Society. ラボからプラントまで、あらゆる課題を相談できるHORIBA. JASIS 2023 HORIBA ブースでは、70年間培ってきた技術や取り組みを皆様にお伝えする場として、実機を用いた主力製品のデモンストラーション、市場別の最新分析ソリューション、コア技術を活かした分析コンポーネントを組み込んだ産業プロセス応用例などを紹介します。 皆様のご来場をお待ちしております。

EKO 試薬・溶媒不要で環境負荷を軽減. 分散系サンプルの安定性を短時間で評価. 液体の糸引き問題を評価. 新技術説明会を行います。是非お立ち寄りください。

Rigaku POWERING NEW PERSPECTIVES

JASIS 2023

9月6日(水)～8日(金)
リガクブース:5A-101, 01
特設サイト

X線分析で創る、未来イノベーション

株式会社リガク 〒196-8666 東京都昭島市松原町3-9-12 X線回折・蛍光X線分析・熱分析・発生ガス分析
☎(042)545-8111<代表電話案内> 分光分析・X線イメージング・非破壊検査

TOADKK

幅広い分野の水質管理をサポート

東亜ディーケーケーは、総合計測器メーカーとして豊かな社会と環境保全に寄与してまいります。

化学・分析分野 | 環境分野 | 食品分野 | 薬品・化粧品・香料分野

NEW

自動滴定装置 **AUT-801** | ポータブル多項目水質計 **WQC-40** | ポータブル水質計 **P40 シリーズ** | イオンクロマトグラフ **ICA-7000** | 吸光度計 **DR 3900**

東亜ディーケーケー株式会社 <https://www.toadkk.co.jp/>

本社/〒169-8648 東京都新宿区高田馬場1-29-10 TEL.03(3202)0219
●東京:03(3202)0226 ●大阪:06(6312)5100 ●札幌:011(726)9859 ●仙台:022(353)6591 ●千葉:0436(23)7531
●名古屋:052(324)6335 ●広島:082(568)5860 ●四国:087(831)3450 ●九州:093(551)2727

「測る」技術革新&チャレンジ

JASIS 2023

「JASIS2023」は幕張メッセをメイン会場に、分析・科学機器および関連製品・技術の実機展示や実機によるデモンストラレーション、トピックスセミナーなどが行われる。今年も新型コロナウイルス感染症が5類になったことで、リアル展を重視。「見て触れて、話して、体感できる」展示会を目指す。国際会議場では出展企業による新製品・新技術などが紹介される。ウェブ上でも情報発信を行うオンライン展は、今回も7回目を迎えた。常に新しい試みと課題解決につながる新製品や新技術を提供している。

見て触れて・話して・体感できる

「JASIS」は「Jaffic Instrument & Scientific Show」の頭文字をとった略称。JASIS A主催の「分析展」とJASIS A主催の「科学機器展」は、2010年に「分析展・科学機器展」として共同開催。12年に名称を「JASIS」に統一し、米国のピッツコン・欧州のアナリティカと並ぶアジア最大級の研究会「JASIS」は「見て触れて、話して、体感できる」展示会を目指す(JASIS2022)

「測る」が支える未来の社会をテーマに掲げ、「ゆたかな暮らし、産業・科学の発展を支える」とともに、さまざまな連携によるイノベーションの機会を創造していきます。未来に向かって「:」という社会課題の解決に向けて、明確に発信する思いが込められている。こうした課題解決の第一歩は測ること。そこから検証して解決の糸口を見いだす。産業の発展において普遍的かつ重要な要素になる。そのため分析・科学機器は常に、測るためのチャレンジと技術革新に取り組んでいる。

「ラボラトリ・デジタル・トランスフォーメーション」における最新動向やデモ展示が行われる。また、全道伝言情報(デノム)解説20周年を企画した特別展示として、国立科学博物館が協力して解説に使用した装置「プリズム3700DNAシークエンサー」と「シーズフロー方式キャピラリー電気泳動ゼンキュール」を展示するなど充実した内容で来場者を迎える。

トピックスセミナー

トピックスセミナーは社会議題に関連したテーマを決定し、会期中、分析・科学機器業界で注目される「先端材料」や「環境」「教育」「ライフサイエンス」「DX」「食品」の6つのトピックスをテーマに、各分野の専門家が講演する。

JASIS スクエア

「JASISスクエア」は主催者企画の展示コーナーとして、会場内に設けた情報発信拠点となる。21年に初めて試みた「JASISトピックスステージ」を、22年から「JASISスクエア」としてスケールアップし、来場者にメッセージを届ける。8日10時半と12時の2回、「科学機器入門セミナー」「展示会JASISの歩き方」と題して、書籍「科学機器入門」を用いて、科学機器全般を俯瞰的な視点で紹介される。聴講後は書籍が進呈される。

新技術説明会

出展企業の技術者が、新製品や新しい技術などについて最新情報を発信し、毎年好評を得ている「新技術説明会」が国際会議場で行われる。

69社261セッションが用意され、新製品や新技術の分析・測定に関する基礎からノウハウまで、分析・理化学機器にかかわる情報が紹介される。聴講はセッション開始15分前から、セミナー開始前まで受け付けられる。

JASIS 2023

科学の力で未来をもっと豊かに

世界の科学技術の発展を支え続けた歴史を踏まえ、お客様の明日への革新を実現するべく最適なソリューションを提供していきます。

幕張メッセ国際展示場 4ホール ブースNo. 4B-901

JSM-IT210 走査電子顕微鏡 | NEOARM JEM-ARM200F 原子分解能分析電子顕微鏡 | JMS-T2000GC AccuTOF™ GC-Alpha 高性能ガスクロマトグラフ 飛行時間質量分析計 | 冷凍蒸発抑制装置 FT NMR装置

JEOL 日本電子株式会社 www.jeol.co.jp ISO 9001・ISO 14001 認証取得

SHIMADZU Excellence in Science

AI to AX

Analytical Intelligence | Analytical Transformation

Analytical Transformationは、島津製作所が提案するAnalytical Intelligenceの進化した概念です。最先端の分析計測機器、ロボティクス、AI、IoT技術を活用し、LABにおける属人性を解消することで、研究者はより高度な業務に取り組むことができます。分析プロセスにおける生産性を向上させ「お客様のビジネス変革」を実現します。この革命的なAnalytical Transformationが、未来への扉を開き、人々の生活を豊かにする鍵となることでしょう。

赤外とラマンの 一台二役を実現した 赤外ラマン顕微鏡 | 人工知能を活用した AIアシスト波形処理 ソフトウェア | IoTや各種センシング 技術を取り入れた 超高速液体クロマトグラフ | ロボティクスにより 手作業を削減した 自動前処理装置

AIRsight | Peakintelligence | Nexeraシリーズ | MUP-3100

JASIS 2023 2023 9.6 [水] - 8 [金] 幕張メッセ国際展示場 10:00 - 17:00 島津製作所ブース: 6ホール 6B-701

＜島津製作所 JASIS2023 特設サイト＞ <https://www.an.shimadzu.co.jp/topics/jasis2023.htm>

株式会社 島津製作所 分析計測事業部 <https://www.an.shimadzu.co.jp/>

HIRANUMA

新製品
自動滴定装置
COM-28/28S

自動滴定装置
水分測定装置

株式会社 HIRANUMA
〒310-0836 茨城県水戸市元吉田町1739
https://www.hiranuma.com/

販売
株式会社 日立ハイテックスサイエンス
〒105-6411 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー
https://www.hitachi-hightech.com/hhs/

JASIS2023
日立ハイテックグループブース内6A-301

【新技術説明会】
9/8(金) 15:00~15:30
●幕張メッセ国際会議場 105号室
【食品およびメッキ業界向け】
自動滴定装置を使用した各種成分の測定事例とコツをご紹介

未来を見据えた、あなたの研究を支える技術
仕事関数・イオン化ポテンシャルを大気中で測定可能 『有機EL 討論会 第16回業績賞』を受賞

大気中光電子収量分光装置 **Model: AC-2S series**

AC-2S Pro α
AC-2S Pro β

下記の用途で実績多数！
●有機デバイスの薄膜特性評価
●全固体電池、Li-ion 電池等の電極触媒粉末の表面特性評価
●ペロブスカイト太陽電池材料の電子状態測定

展示会場でデモ測定を実施！

理研計器株式会社
〒174-8744 東京都板橋区小豆沢2-7-6
TEL (03)3966-1117 FAX (03)3666-1174
ホームページ https://www.rikenkeiki.co.jp/

超高感度
VOC モニター

小間位置
5ホール
2023 5A-705

ppbRAE3000+
測定範囲：1ppb～9999ppm
分解能：1ppb
応答時間：3秒未満 (T90)

株式会社 篠原電機
TEL: 06-6358-2657 FAX: 06-6358-2351
E-mail: rae@shinohara-elec.co.jp URL: www.shinohara-elec.co.jp

日本電子

日本電子は多種多様な分析装置や分析技術をも有的に、横断的に組み合わせ、トータルソリューションを提供する「YOKOGUSHI」戦略を展開している。

展示会ではエネルギーやライフサイエンス、サステナビリティなどあらゆる分野における「YOKOGUSHI」事例を紹介する。また分析装置のシェアリングやサブスクリプション(定額制)など、新たに組み込むサービス事業も提案する。

新製品については7月に発表した最新型の走査電子顕微鏡「JSM-IT210」を国内初披露し、実機の動作や操作感を公開する。

分析・科学機器の最新情報発信

関西エリアでは2回目となる「JASIS関西2023」が2月1日から3日までの3日間、大阪市北区のグランキューブ大阪(大阪府立国際会議場)で開催された。

100社・団体、179小間が出展し、会場3階メインホール全体を使用する規模(約2600平方メートル)で行われ、3209人が来場。最先端の科学・分析システム&ソリューションの展示に加え、会場10階では出展社によるセミナーや主催者特別企画「トピックスセミナー」などが行われ、分析・科学機器に関する最新情報が発信された。

「JASIS関西2023」開催

堀場製作所

堀場製作所は創立70周年を迎え、展示会では「Your Partner in Changing Society」をテーマに、さまざまな課題を解決できる「ORIB-A」と題し、研究開発や製造工程でも活用される分析技術や取り組みを紹介する。

多くの分析コア技術が、同社の分析装置の心臓部として採用されてきた。これらの技術をユーザーの装置や生産ラインにも組み込むことで、幅広い課題の解決に貢献していく。展示製品は水電解・燃料電池の評価装置、ラマン分光装置のフラッグシップ機「LabRAM Odyssey」などを提案する。

HIRANUMA

HIRANUMAは日立ハイテックグループブース内で、滴定と水分測定の特長を兼ね備えた自動滴定装置「COM-28/28S」をはじめ、自動滴定システム「COM-A19SC1712」「COM-A19760」、水分測定装置「MOICOA19」「MOIVOA19」を実機展示する。

8日目の新技術説明会では、食品とめっき業界向けに「自動滴定装置を使用した各種成分の測定事例とコツを紹介」と題し、正確な測定のポイントや、問題解決のテクニックを解説し効率的な分析手法を提案する。

英弘精機

英弘精機のレオロジー評価装置は、新しいタイプの伸長粘度計。一般的な粘度計では評価が困難なロール印刷やスクリーン印刷時のミスティング、ポトリングの液切れなど製造工程で発生する曳き系(液体の引き)問題を評価する。

サンプルとなる液体を上下方向に引っ張り、糸の生成から破断までの過程を、電荷結合素子(CCD)カメラと張力センサーで測定し伸長粘度を算出する。

実際に問題の発生する製造プロセスと同じ状態を装置上で再現できるため、材料開発や製造条件の検討のほか、製造トラブル改善に向けて提案する。

島津製作所

島津製作所はマイクロプラスチック自動処理装置「MAP-1100」を紹介する。

海洋環境や生態系に影響を及ぼすマイクロプラスチックが世界中で社会問題となっている。実態の把握や対策には、マイクロプラスチックのサンプリングや前処理、サイズ・個数計測、定性分析などの分析調査が求められている。同装置は環境表層水の試料から混在する環境マイクロプラスチックを除外し、マイクロプラスチックを抽出するための代表的な前処理法を自動化する。省力化に加え、高い再現性と安全性を実現する。

同社はさまざまな製品を通じて、社会課題の解決に貢献していく。

JASIS 2023 有力企業の製品・技術 順不同

東亜ディーケーケー

東亜ディーケーケーはモデルチェンジした2系列同時滴定・表示に対応した自動滴定装置「AUT-801」や、イオンクロマトグラフ「ICA-7000」をはじめとする信頼性の高い水質分析計を中心に紹介する。

AUT-801は食品、化学・分析、めっき分野など幅広い分野での研究開発・品質管理のニーズに対応。

新技術説明会では自動滴定装置の基礎知識や、メンテナンス方法など実例を交え分かりやすく紹介した「自動滴定装置基礎セミナー」のほか、毎年好評である「水質測定基礎セミナー」「イオンクロマトグラフ基礎セミナー」を発表する。

理研計器

理研計器はガス検知器・ガス警報器の総合メーカー。展示会では大気中光電子収量分光装置のハイエンドモデル「AC-2S Pro α(プロ・アルファ)」を実機展示する。

従来機種から継承した大気中での仕事関数測定機能に加え、多彩な機能を搭載している。100度Cまでの温度調整が可能な昇温ステージと最大光量2500ナノワットまで出力可能なレーザー励起プラズマ光源(LDLS)を搭載している。

さらに測定エネルギー範囲はこれまでより低い2.0電子(eV)から掃引できるため、さまざまな研究分野で貢献が期待されている。

篠原電機

篠原電機は米ハネウェルのガス検知器やコードレスキャナ、防爆ハンディターミナルのほか、防音イヤーマフや防護服など安全保護具を取り扱う国内代理店。

展示会では揮発性有機化合物(VOC)から発生するガスを測定する定置型/ポータブル型検知器をはじめ、安全確保に欠かせない各種成分測定用の定置型/ポータブル型ガス検知器、コードレスキャナ、ハンディターミナルなどを出品。

新製品ではエアやガス漏れ、異音などを視覚化できる超音波リーク検知カメラ「サーチニクイメジャー」を紹介する。

リガク

リガクは「X線分析で創る、未来イノベーション」をコンセプトに、複雑化した現代社会の課題解決に役立つ革新的な分析装置と分析技術を紹介する。

ライフサイエンス研究分野で世界的に注目されている電子回折装置「Xtala B Synchro E.D」を紹介するほか、マテリアルサイエンスでは新型波長分散型蛍光X線分析装置「ZSX Primus III NEXT」をはじめ、さまざまな製品を出品。

今年も基礎講座から新製品や注目技術の提案まで充実したテーマをそろえ、セミナーをブース内とライブ配信を通じて発信する。

ウェブでニュースはいかがですか？

QRコード

ニューススイッチ
NEWSWITCH
http://newswitch.jp/

■ ニューススイッチとは？
日刊工業新聞社のニュースをはじめとするコンテンツを、もっと新鮮に、親しみやすくお届けするサイトです。少し硬い、難しいニュースをわかりやすく、または詳しく。話題のニュースから、小さいけれどちょっと面白いニュースを幅広い読者へ。そしてニュースを起点に、コミュニティーを少しずつ作っていかれたらと考えています。

■ 独自のテーマ
ニューススイッチ編集部が独自に企画・取材した特集記事をはじめ、新聞とは一味違う切り口でニュースをお伝えします。

■ 記者が記事選定・コメントをプラス
日刊工業新聞の記者がテーマごとに気になる記事を紹介、コメント。記事や取材背景を解説します。

日刊工業新聞社